

## 家庭や職場での手指用消毒液の危険性

2020年9月



手指用消毒液の着火による火傷

ある従業員が現在COVID-19対策として推奨されているアルコール系の手指用消毒液を使用した。

消毒した後、消毒液が完全に蒸発して乾燥する前に、その人は金属表面に触れ、蓄積していた静電気が着火源となった。消毒液に火が着き、ほとんど目に見えない炎が両手を覆った。なんとか火は消せたものの、I度とII度の火傷を負った。

参考: International Association of Oil & Gas Producers (IOGP) Alert 314 IOGP Safety. (<https://safetyzone.iogp.org/>).

また、手指用消毒液を付けた直後にタバコに火をつけて、手が炎に包まれた事例がいくつもある。

### 知っていますか

- 一部の手指用消毒液はアルコールが主成分で、引火点が62~80°F (16.7~26.7°C) の引火性物質である。引火点を超えると、その蒸気は着火源があればすぐに着火する。
- 多くの手指用消毒液には、引火点を含み当該化学物質の危険性と注意事項がリストアップされている安全データシート(SDS)がある。
- アルコール系の消毒液で濡れた手は、静電気の火花、その他の着火源によって着火することがある。人体には、引火性物質物に点火するほど大きな静電気を帯びることがある。
- アルコールの炎は非常に薄い青色で見えづらい。アルコールの小さな炎は水ですぐに消すことができる。
- 一部の手指用消毒液には、引火性かつ有毒なメタノール(メチルアルコール)<sup>1</sup>が含まれていることがある。 これらを肌には直接使用しないこと!

1. <https://www.fda.gov/drugs/drug-safety-and-availability/fda-updates-hand-sanitizers-methanol>

### あなたにできること?

- アルコールを主成分とするローションや消毒液を使用した時は、着火する可能性のある他の作業を始める前に完全に乾かすこと。
- 無害と思われるものも含め、取り扱うすべての物質についてSDSを読むこと。
- アルコールを主成分とする手指用消毒液はSDSに従って保管して、着火性を増したり、有効性を低下させる可能性があるので光や熱源を避けること。
- この情報を家族や友人と共有して、同様の事故を防止すること。

**例え安全用途であっても、全ての物質を安全に取り扱うこと!!**